

## 【要旨】

### 保険薬剤師における職業性ストレスとインシデントとの関連性

松谷 定<sup>1</sup>、竹下 千尋<sup>1</sup>、五十嵐 健祐<sup>1</sup>、阿部 真也<sup>2</sup>、吉町 昌子<sup>2</sup>、後藤 輝明<sup>2</sup>、山城 海渡<sup>3</sup>、川崎 直人<sup>3,4</sup>  
(<sup>1</sup> 株式会社ツルハ、<sup>2</sup> 株式会社ツルハホールディングス、<sup>3</sup> 近畿大学薬学部公衆衛生学研究室、<sup>4</sup> 近畿大学アンチエイジングセンター)

近年、保険薬剤師は業務の多角化が求められている。そのためストレスが増大し、インシデントにつながる危険性がある。しかし、保険薬剤師の職業性ストレスとインシデントの関連性については明らかにされていない。そこで本研究では、保険薬剤師の職業性ストレスとインシデントの関連性について調査した。2016年12月、(株)ツルハ(212店舗)の保険薬剤師を対象に勤務状況、職業性ストレス、離職願望およびインシデントに関するアンケートを実施した。回答が得られた397名のデータを解析した結果、職業性ストレス因子の「心理的な仕事の負担(量)」「仕事の適性度」「働きがい」と「離職願望」がインシデントと関連することが明らかとなった。本研究で明らかとなったインシデント関連因子を早期に把握できる環境を整える必要性が示唆された。

**キーワード:** 保険薬剤師、職業性ストレス、インシデント、離職願望

(薬局薬学 2020年12巻2号 p115-121)

受付:2019年7月25日 受理:2020年4月10日